PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

55-162772

(43)Date of publication of application: 18.12.1980

(51)Int.CI.

C07D213/64 C07D213/65 C07D213/68 C07D213/70 C07D213/82 C07D213/85 C07D215/22 C07D217/14 C07D217/24 C07D235/26 C07D239/32 // A61K 31/415 A61K 31/44 A61K 31/455 A61K 31/47

(21)Application number : **55-069434**

23.05.1980

(71)Applicant : SHIONOGI & CO LTD

(72)Inventor: HAMADA YOSHINORI

OKADA TETSUO

(54) PREPARATION OF SUBSTITUTED ACETIC ACID DERIVATIVE

(57) Abstract:

(22)Date of filing:

NEW MATERIAL: A substituted acetic acid derivative of formula I (formula II is pyridine, pyrimidine, imidazole or tetrazole; R is hydrocarbon group; A is O or S; formula II and the benzene ring may have a 1W3C substituent, condensed benzene ring or alicyclic ring which will not affect the reaction; -COR may be on the condensed benzene ring).

EXAMPLE: 2-(2-Phenoxy-5-pyridyl)-propionic acid. USE: A medicine or drug for an animal having improved anti-inflammatory action (including an antirheumatic action) and an analgesic action.

PROCESS: A compound of formula III is reacted with an alkoxymethylene-trihydrocarbon group-substituted phosphorane to give a compound of formula IV, which is hydrolyzed and oxidized to form the compound of formula I. The compound of formula III can be obtained by reacting a halogenopyridine with a phenol or thiophenol in the presence of a basic substance if necessary.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of

[Kind of final disposal of application other than

(9 日本国特許庁 (JP)

①特許出顧公開

⑫公開特許公報(A)

昭55—162772

⊕Int. Cl.3	識別記号	庁内整理番号	❸公開	昭和5	5年(1980))12月1	18日
C 07 D 213/64		7138—4 C					
213/65		7138-4C	発明				
213/68	•	7138-4C	審査	請求 オ	注請求		
213/70		7138-4C					
213/82		7138—4 C					
213/85		7138-4C					
215/22		7306—4 C					
217/14		730 6 -4 C				•	
217/24		7306-4 C					
235/26		7306—4 C					
239/32		6670—4 C	※		(全 6	頁)

60置換酢酸誘導体の製造法

图 昭55-69434

②出 顧 昭49(1974)5月22日

②特 顕 昭49-58244の分割

@発 明 者 浜田芳徳

20特

尼崎市武庫豊町2の5の53の30 2

切出 願 人 塩野養製薬株式会社

大阪市東区道修町3丁目12番地

仍代 理 人 弁理士 岩崎光隆

最終頁に続く

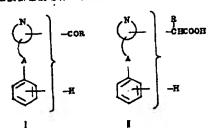


4 発明の名称

世典計画新導体の製造法

2特許請求の範囲

一般式!で表わされる化合物にアルコキシメチレン三次化水素基置換フオスフオフンを反応させ、 て得られる化合物を加水分解しついで酸化して一 数式!で表わされる化合物を得ることを特徴とす る電換酢製誘導体の製造法。



(式中、^Nはピリロン、ピリミロン。イミダゾールまたはテトラゾールを表わし、B は炭化水素基を表わし、A は 輸業または確實を表わし、^N および上記ペンゼン乗上には反応に影響を及ぼさない

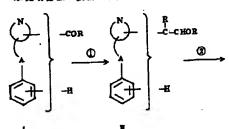


「子」例の世典基を有していてもよくあるいは総合ペンゼン環または総合別環を有していてもよく-COR 基はこの総合ペンゼン環上にあつてもよい。

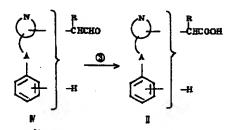
3.発明の詳細な説明

本発明は世典計論制導体の製造法に関し、その 目的は優れた抗炎症作用(抗リウマチ作用も含む)および鍼瘍作用を示し医集または動物薬として 有用な世典許齢制導体を得る点にある。

本発明方法の要旨は次式によって示される。



(以下余白)



(式中・N)はピリタン・ピリミタン・イミダゾールまたはテトラゾールを参わし、Rは炭化水業基を変わし、Aは酸素または硫黄を変わし、N)および上記ペンゼン環は反応に影響を及ぼさない!~3個の置換基を有していてもよくあるいは結合ペンゼン環または結合脳環を有していてもよく。
-COR 基はこの結合ペンゼン理上にあってもよい。 ドはアルキル基を変わす。)

本発明方法は一般式 I で表わされる化合物をアルコキシメチレン三次化水素製換フオスフォランと反応させるいわゆるウイティッと (Witteld) 反応に付し(反応①)、得られる化合物 II を加水分解に付し化合物 II とした(反応②)・後輩化反応に

- 3 -



常不活性気流中で行われる。得られる化合物系は
ついで反応③すなわち加水分解反応に付し、アルコキシメチレン基をアルデヒド基にする。 この加水分解は通常エノールエーテルを加水分解する瞬に用いられる手及を用いることができる。 例えば、酸として複酸、硫酸、磷酸はたはこれらと有機酸(例えば、酢酸)などとの混合物を用いることががあ、塩基として水酸化アルカリ、炭酸アルカリなどが用いられ水あるいは含水溶媒の存在下で加熱することにより実施される。生成する化合物が
は単離することなく次工程③に付すことができる。

反応③は化合物ドのアルデヒド基をカルボキシル基に変えるもので一般のアルデヒド基をカルボキシル基に変換する酸化反応に単じて行えばよい。例えば過マンガン酸カリウム、過敏化水素、酸化級などにより水中または有機溶解中で酸化してもよいし、磷酸、クロム酸、希腊酸と過酸化剤・または過酸化剤酸などにより酸化してもよい。なお上記反応①、③および の工程において反応を受ける環上の電換率は各反応の前後に電換率を修飾



神原昭55-162772(2)

付して目的とする電換酢酸調導体 5 を得る(反応 ②)ものである。

次に本発用方法の実施について詳細に記する。 反応①は通常のウイティッと反応に従つて行えば よく,種々のアルコキシメチレン三炭化水素電換 フオスフオラン(例えば。メトキシメチレントリ フエニルフオスフオラン。メトキシメチレントリ (メトキシメチル)フオスフオタン、エトキシメ テレントリプテルフオスフオランなど)が展料化 合物と反応条件に応じて適宜連択し使用される。 例えば、上記フオスフオランにハロゲン化水素が 付加したフオスフオニウム堰を使用し。有機金属 (例えば、フェニルリチウム、プテルリチウムな ど)を用いてユーテル類(例えば、エーテル。ジ ピニルエーテル。チトラヒドロフランなど)中で 必要に応じて加温下で化合物しと反応させるか。 あるいはアルカリ金属アルコキサイド(例えば 。 ナトリウムノチラート . ナトリウムエチラートな どりを用いてルコキサイドと対応するアルコール 中で反応させるのが通常実験的である。反応は通

- 4 -



することにより。最終において目的化合物を得る ようにすることができる。

なお、原料化合物Iはハロゲノビリジン類にフェノール類またはチオフェノール類を必要に応じて担義性物質の存在下に反応させることにより、 製造される。

かくして得られた化合物目はさらに分離、精製あるいは製剤化。その他の必要に応じて、適当なアルカリ金属塩(例えば、ナトリウム、カリウムなど)、アルカリ土原金属塩(例えば、カルシウム、マグネシウム、パリウムなど)、その他アルミニウム塩などに常法に従って変換することがで

本発明方法の目的化合物である便換酢酸酯準体 及びその塩素は優れた抗炎症作用(抗)ウマデ作 用も含む)または鎮癌作用を示し、医薬または動 物薬として有用な化合物である。

以下実施例において本発明方法の実施部様を示

実施例 /

元素分析 C/3H/3O3Nとして 計算値: C.7466;H.627;N.127 実験値: C.749年;H.637;N.177 IR レ CHC83 cm^{-/} /658./590 NMR 8(CDC83) /88,/95(3H,6)./367. 370(3H.m.).6/2,633(3H,q)

- 7 -



Me エメテル基、Me i エメトキシ基、Bi エエテル基。
Pr エプロピル基、i-Pr エイソプロピル基、
Bu エブテル基、i -Be エイソプテル基。
a-Bu エ a ープテル基、i-Be エ i ープテル基。
Ac エアセテル基、An エアニリノ基、
Ca (aH₂0) = カルシウム塩(a 水和物)。
Ad ニアルミニウム塩、d = 分解点。

(以下会白)



特欄昭55-162772(3)

本品と469を2別複数50mlに加え、3業気気 歯中一夜かきまぜた後反応被にベンゼン10mlを の力をまぜた後反応被にベンゼン10mlの の力をませた後反応被にベンゼン10mlの の力をませた後反応被にベンゼン10mlの の力をませた後でがまりのよとでかまませた。 のかきませた後不存むをごからを変数数では、 のかきませたがでは、 のかまませたが、 のかまませたが、 ののようでは、 ののように変数をでは、 ののように、 のののはをなべて、 ののように、 のののは、 ののののは、 ののののののは、 ののののののには、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 ののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 のののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 のののでは、 のののでは、 ののでは、 のでは、 ので

実施例2~/03

以下実施例!と同様にして下記の化合物を得る。 なお、下記表中で用いられる略号は下記の意味を 扱わし、A 様において例えばユーロはピリッン頭 のユ位がエーテル結合していることを表わし、X₁、 X₂、Y₁、Y₂はよびY₃機において例えば*4*-C4はク ロルが母核の単位を重接していることを表わす。

-8-

																								H		35-		277 ' n	12 (4	,	
	(D.) de	135~1345	119~1204	P66~26	1075~10£\$4	84~834	///~0//	94-93	114-115	Ca (2H20)/35~/36	C. (20 10 10 10 10 10 10	¥164~65	134~130d		1143~1155	66~26	C4 (3/12/0)/40~/4/	C= ()(B_20)/\$\$	92-43	108~107	105~106d	7777		C= (ZH30)/33~/37	05/(Of H) v3	/40~/44 (地番)	Cn (48,0)/87~/89	CE (2H30)/325~/325	Cr (408 30) / 45	Ca (H20)205	
M .		, E	_ =	H:	m	. ·	ᇳ	Ħ	x	=	Ħ	×	Ħ	#	Ħ	=	=	Ħ	Ħ	Ħ,	Ħ	Ħ	Ħ	耳	×	Ħ	重	×	×	Ħ	
CHCOOM	Y, Y,	<u>-</u>	=	=	Ħ	×	×	#	ı	Ħ	×	×	=	Ħ	H	=	Ħ	z i	Ħ	Ħ	Ħ	Ħ	Ħ	×	#	H	×	×	×	m	
× × × × × × × × × × × × × × × × × × ×	x, x,	H	H 4-C4	×	B 2-C1	и э-си	13-7 E	H	H 4-C4	*	# # #	H 4-C1	H 4-Kot	H #-Ne	H	# # # H	*	10N-70 H	13-4 H 1	13 E H 1	H 46-CN	H H 45-C#	н и "соон	H H J-CF,	H H 4-C1	B H 4-CONH,	HO-4. H H	н н и оле	H H 40-0Ac	н и 4-оя	
7	×	×	×	×	Ħ	×	Ħ	Ħ	Ħ	Ħ	쬬	×	Ħ	×	×	#	×			· ==	=	• •				•					١
<u>.</u>	+	9	9 7	7-0	9	0-7	7-0	7-0	9	9-0	9-9	7-8	7-0	7-0	8-7	0-7	2 6	0-7	9			0-9	9	7-0							١
	pt	1	ż	*	ž	ž	ż	¥	i	ž	ź	ź	*		*	3	i	3	Í	Ř	ķ	ă	×	ä	ž	*	1	*	ż	ž	١
/+ i	B Cucoon		শ ব	. 3	. 3	. *	· •	, 69	•	. n	۱ ۲	٠ ،	* *	. 3	•	· ·	n :		n 3	. =	. 3	. •	7	· *	•) ¥		-	. **	· ~	-
	# W		7 '	n 3		1 4		. .	. •		: :	: :	: :	7 :	• :	2	9 !	//	9 9	. :	-	* 6	-	1 2		; ;	4 5	•	9 %	ì *	; -

-10-

実拡例 	の位置 一CHC 00H	R	-A-	x,	x,	Υ,	Y	Y,	ab (,C,)
65	3	M.	6-0	H	H	23-4	ング	Ħ	/3/~/32
66	3	Mo	6-0	4-Me	5-No	H	H	H	144~145
67	4	Mo	2-0	56-	ーベント	H	Ħ	Ħ	C. (/SEP)2/6~2/7
68	3	M.	6-0	45-	ーペング	H	Ħ	Ħ	/22~/23
69	3	Mo	6-0	45-(CH ₂) ₄	H	H	H	15/~/52
70	3	M•	6-0	Ħ	Ħ	34-(CH ₂)	H	/225~/235
71	3	Me	,6-0	Ħ	H	3—Me t	H	Ħ	69.5~705
72	3	Me	6-0	_2—Me	4-Me	H	H	Ħ	C = (/(5H2O) 2/84
73	3	Me	6-0	H	H	4 -OH	H	Ħ	167~169
24	3	Me	6-0	Ħ	H	4-AcO	H	Ħ	161~162
75	. з	Me	6-0	Ħ	H	4-i-Pr	H	H	89~91
76	3	Mo	6-0	Ħ	H	4-Pr	H	Ħ	81.5~825
77	3	Me	6-0	H	H	4− t −B u	H	H	112~113
78	3	Mo	6-0	H	н	4 —a−B a	H	H	67~71
79	3 .	Me	6-0	H	H	4 −Bu	H	H	C.(H_D)/40~/42
80	3	Me	6-0	H	H	4-j-Ba	H	H	Ca //4~//9(d)

E FE



ноо эт
× ×

新 系	×	×	フェノキン語の位置	*	* "	オーカー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	(D,) d
1	æ	Ħ	7	×	×	67	26-77
6.2	Ħ	¤	n		Ħ	*	129~130
S	<u>ک</u>	Ħ	4	×	ĸ	3	005~361
3	S-COME,	ı	4	Ħ	Ħ	*	2/1-3/2
4.	Œ	Ħ	נים	×	Ħ	*	130~131
9.9	Ħ	#	*	×	Ħ	*	181-081
82	34-(CH ₂),	H2)4-	78	Ħ	Ħ	*	166~167
90	コギーベンン	7.	7	Ħ	×	*	145~147
8	į	£ 7.	7	Ħ	*	*	1555~156
90	# #	Ť,	ч	Ħ	m	*	143~/43
16	****	×	74	Ħ	Ħ	*	123~124
9.2	Į.		71	×	Ħ	*	C. (H,0)273-275
. 6	į	Ħ	n	Ħ	Ħ	*	137~138
96	į	×	*	Ħ	Ħ	3	153~153
9.5	*	Ħ	4	Ħ	×	*	133-134
96	į	Ħ	ч	×	Ħ	*	12/~/21
47		Ħ	ч	- F	Ħ	*	\$01~601
86	×	m	71	3 Kei	Ħ	3	Ca (46H,0)/5&d
66	:	=	4	. m		*	136~138
100	Ħ	Ħ	7	į	=	*	150-131
101	Ħ	Ħ	73	72	Ħ	*	66~36
101	×	Ħ	7	70-6	Ħ	*	145~146
	=	Ħ	7	70	J.	*	127~128

補助昭55-162772(6)

実施例 / 0 4 - / 07

実施例!と同様にして下記の化合物を得る。

ユー(6ー (ユーピリジルオキシ) ーユーナフ チル)プロピオン酸、甲/タク~/タよで。

ユー(4-(/-フェニルーパユスダーテトラ プリルオキン)フェニル)プロピオン酸、甲/65 ~/66℃。

ユー[4ー(・ユーピリミジルオキシ) フェニル) プロピオン酸、甲/ クチ~/ クゟ'ひ。

ユー(&- (/ーノテルーユーペンズイミダゾ イルオキシ)フェニル) プロピオン酸。甲/ま& ~/まま℃。

> 特許出願人 塩野義製薬株式会社 作 理 4 本業主 出版 出版

第1頁の続き

動Int. Cl.3 識別記号 庁内整理番号 #A 61 K 31/415 A B G 31/44 A B E 31/455 A A H 31/47 A B G

⑦発 明 者 岡田哲夫

堺市三条通2の5